

ぽ〜れぽ〜れ

【月刊】
POLE-POLE
スワヒリ語
No.

368

2011.3



家族の会
きょう・明日

3月号付録●もしもの時にあわてない「緊急時対応シート」
を付録としてつけています。

もくじ

ニュースと情報	2
「一日介護」が半数近くも アンケート調査報告	3、10
連載●知っていますか？レビー小体型認知症⑥	
〈最終回〉小阪憲司	4
会員さんからのお便り	6
支部だよりにみる介護体験⑤ 広島県支部・田中道子さん	8
“つどい”は知恵の宝庫④	
『ひとり暮らしの叔母の介護に困っています』	9
いきいき「家族の会」—まちでも村でも—	11
国際交流委員会発「ケアでつながる地球家族」	11

連載●リレーエッセー「老いをめぐる私の想い」 井上恒男	12
連載●提言のここに注目⑥「家族の会の提言」の成果と課題	13
仲間と出会い話したい〈本人登場〉丸本正章さん	14
今年の抱負は「福よ来い来い」、「笑うこと」	
高見代表の一筆啓上 ②19	15
事務局ほっとコーナー	15
各地のつどい	16
会報・ホームページ委員会報告	5
治療薬3品目が使用可能に！	5



news & information

顧問 三宅貴夫

ニュース と 情報

★認知症に取り組み始めた中国（中国）

中国では10年ほど前まで認知症は恥ずかしい病気とみなされ知識も乏しかったため、多くの認知症高齢者は窓に鉄格子がある精神科病棟に入れられていました。近年、認知症高齢者を介護施設に入れる家族が増えていますが、施設が不足しています。高齢者が増加して一人っ子政策により、1人の子どもが親2人と4人の祖父母を支える「4-2-1問題」という危惧すべき状況が起こっているのです。こうしたなかで上海市は、高齢者の90%はおもに在宅で介護を受け、7%は地域のセンターに通い、3%は介護施設で生活するという体制を整える「90-7-3計画」という計画を立てています。

しかし、このためには毎年、最低5,000人分の施設が必要とされています。1990年、中国は、国家による財政的支援をやめ市場経済へ移行したため高齢者介護の資金が不足しています。また、社会的セーフティーネットが弱くなり、大都市の家族は高齢者を家で介護するという伝統に不満を抱いています。昨年、上海で、美容室、映画室、玩具部屋、カラオケルームなどが備わった認知症高齢者向けの高級な複合施設「上海第3高齢者ホーム」がオープンしました。この施設で親が生活しているユーキアン氏は、施設を見つけられた幸運な人です。彼の妻は「ここの職員はよく母をみてくれます。私たち夫婦はともに働いているので、この施設がなければどうなったことでしょう」と語っていました。

（New York Times 電子版 2011年1月12日号 “China, in a Shift, Takes On It's Alzheimer's Problem” より）

★記憶トレーニングの効果は認められない（イギリス）

イギリスにある医療の有効性を評価する国際的に権威ある団体のコクラン・コラボレーションは、認知機能訓練の結果を報告した研究論文について評価し「健康な高齢者と軽度認知障害の人への認知機能訓練の効果は認められない」と報告しました。

評価の対象は1970年から2007年までの健康な高齢者および軽度認知障害の人に対する認知訓練の有効性についての36の研究です。これらの研究の大部分はグループ単位の認知訓練についてのもので、訓練の総時間は6時間から135時間、日数は1日から2年までの幅があり、それぞれの研究に参加した人の合計は2,229人です。審査グループは「この結果は、さらに長期の、あるいは異なる介入方法によっても効果がないことを意味するものではない」と付け加えています。また、評価にあたったチューリッヒ大学心理学研究所のマイク・マルチン氏は「これらの研究方法や対象とした訓練の内容にはかなりのばらつきがある。訓練の効果の有無やどんな方法が効果的なのかを決めるためには、連携して研究を進める必要がある」と述べています。

（Health Behavior News Service January 18, 2011 Memory Training Might Not Be Best for Reducing “Senior Moments” および報告書 “Cognition-based interventions for healthy older people and people with mild cognitive impairment”）

三宅：いわゆる「脳トレ」の効果に関する最新の評価報告です。残念ながら既存の方法では認知機能の長期的な効果は期待できないようです。東北大学の川島教授が勧める「脳トレ」や「学習療法」も同様と思われます。今後の新たな試みや研究の成果を待ちたい。

「暮らしと介護保険に関するアンケート調査」の報告

「ほとんど一日中介護」が半数近くも 男性介護者急増、困難は「気が休まらない」こと

理事・調査研究専門委員 北川公子

「家族の会」発足から30年、介護保険制度開始から10年にあたり、認知症の人と介護家族の生活と介護の状況を明らかにするとともに、介護保険に対するご意見を伺い、今後の取り組みに役立てることを目的にこの調査を行いました。調査期間は2010年8月～11月末です。返信は全部で1,662通、そのうち会員からの回答は1,203通（内訳：本人5人、主介護者768人、副介護者93人、元介護家族166人、保健医療福祉関係者139人、その他15人、不明17人）でした。今回、会員外の方にもご協力いただきましたが、ここでは会員からの回答のうち、現在介護・療養中のご本人、主介護者、副介護者の合計866人のデータを中心に、一部は1981年、1991年、1999年に行った調査と比較した結果を報告します。

お忙しい介護やお仕事の中で協力いただき、本当にありがとうございました。

1. 認知症の人の状況

男性282人（32.2%）、女性571人（66.6%）、不明13人、平均年齢は78.7歳（男性74.3歳、女性80.9歳）、認知症の傷病期間は平均7.1年でした。診断名をみると、アルツハイマー型認知症・アルツハイマー病（72.3%）が最も多く、次が血管性認知症（12.5%）でした（図1）。また、要介護3～5以上が約6割を占めていました（図2）。

図1 ● 認知症の診断

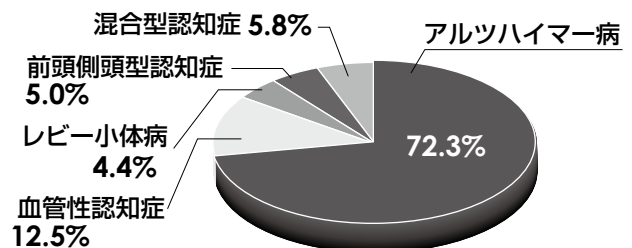
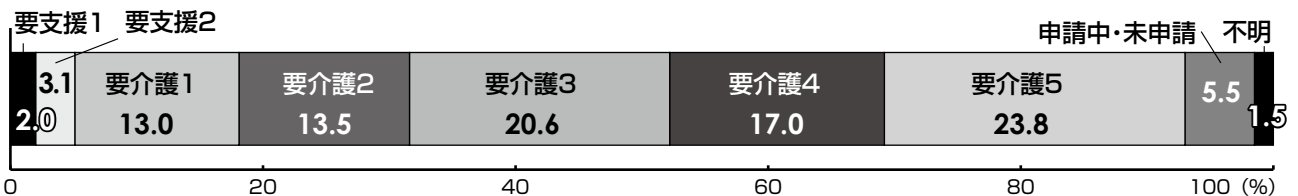


図2 ● 介護度



2. 介護者の状況

介護者の性別は男性279人（32.2%、平均70.1歳）、女性577人（66.6%、平均61.3歳）、不明10人で、介護者の続柄は多い順に妻232人（26.8%）、娘221人（25.5%）、夫205人（23.7%）、息子の妻107人（12.4%）、息子69人（8.0%）、その他22人、不明10人でした。1981年調査の男性介護者割合は8.2%、91年13.5%、99年18.6%で、この30年で男性介護者の割合は大きく増加しました。（10ページへつづく）

ぼ〜れぼ〜れ
付録

「緊急時対応シート」をお届けします

本誌に挟み込みの「緊急時対応シート」は、会員みなさんに、もしもの時に役立てていただくために作成しました。

もしもの時は、誰でも慌ててしまうもの。そのような時のために「緊急時対応シート」で備えてください。

利用方法

- ①必要事項を記入
- ②両面をよく読み、緊急時の対応方法をイメージしておく
- ③冷蔵庫に貼ったり、電話機の横などに置いておく

知っていますか？ レビー小体型認知症

病気、診断、治療、介護は

連載〈最終回〉6



横浜ほうゆう病院・院長
小阪憲司

●レビー小体型認知症の歴史

これまで5回にわたってレビー小体型認知症（DLB）について述べてきました。今回は最終回なので、DLBの歴史を簡単に紹介し、DLBの今後について私が考えることを記載することにします。

前回DLBとパーキンソン病の関係について述べましたが、DLBの歴史を述べるにはパーキンソン病の歴史から始めなければなりません。パーキンソン病は1817年にイギリスのジェームス・パーキンソンによって初めて詳しい症例の記載がなされましたが、彼は「震顫麻痺」という名前をつけました。パーキンソン病という名前をつけたのは1900年代後半のパリのシャルコーです。彼はさらにこの病気では認知症が起ることもあることを初めて指摘しました。しかし、その当時はパーキンソン病では脳にどのような変化があるかはわかっていませんでした。1912年にミュンヘンでアルツハイマーのもとで研究していたレビーがパーキンソン病の脳幹や間脳の神経細胞の中に特有な封入体を見つけ、それが1919年にパリのトレチアコッフによりレビー小体と名づけられました。さらに1950年代になって、グリーンフィールドらがパーキンソン病では脳幹のいろいろな部位にレビー小体が発見することを明らかにし、初めてパーキンソン病の脳の変化が明らかになりました。しかし、その後もレビー小体は脳皮質にはほとんど出現しないと信じられていました。ところが、1976年以来私たちが脳幹の他に脳皮質にもレビー小体がたくさんみられ、認知症とパーキンソン症状をきたす剖検例を続けて何例か報告し、脳皮質にもたくさんのレビー小体が発見

出現して認知症が起こることを明らかにしました。そして、それを1984年に「びまん性レビー小体病」と名づけました。その前に1980年に私たちは「レビー小体病」という名称を提唱し、レビー小体は主に脳幹に起こりパーキンソン症状を示す脳幹型（パーキンソン病のこと）と脳皮質にもたくさんのレビー小体が発見し認知症とパーキンソン症状を示すびまん型（びまん性レビー小体病のこと）、さらにそれらの中間の移行型があることを指摘しました。その後、さらに1998年に脳皮質にはたくさんレビー小体が発見されるが脳幹にはあまりレビー小体が起こらず、認知症は起こるがパーキンソン症状が起こらないものを「大脳型」レビー小体病と名づけました。1995年にイギリスで初めて国際ワークショップが開催され、私も基調講演をしましたが、この会の結果が1996年に発表され、「レビー小体型認知症」という名称、その診断基準が初めて報告されました。その後、レビー小体の本体がアルファ・シヌクレインという蛋白からなることが1998年にポリメロポウラスらにより報告されるに至りました。そして、2005年にはDLBの診断基準の改訂版が発表され、臨床診断がより正しくくだされるようになりました。2006年には私が横浜で第4回国際ワークショップを開催し、それを機に毎年11月に横浜でDLB研究会を開催し、さらに2008年にはDLB家族を支える会を発足させ、毎年11月に家族を支える会と研究会が合同で総会を開いています。また、『レビー小体型認知症の臨床』（医学書院）が発刊され、さらに家族を支える会から『知っていますか レビー小体型認知症』『レビー小体型認知症の介護がわかるガイドブッ

ク』（いずれもメディカ出版）が発刊され、全国的に家族を支える会の支部が広がり、現在13支部ができています。

●レビー小体型認知症の今後

DLBは歴史が浅いのに今や高齢者の認知症の約20%を占め、アルツハイマー型認知症に次いで2番目に多いポピュラーな認知症となりました。わが国でも大分DLBが知られるようになり、正しく診断されつつあり、その頻度はまだ増えると思われます。DLBの第5回国際ワークショップは2012年に開催されると思われますが、そこではより精度の高い生物学的診断マーカーが議論されると思われます。その一つに、わが国で開発されたMIBG心筋シンチグラフィが話題になり、重要な診断マーカーに数えられる可能性があります。現在、山田正仁教授（金沢大）や織茂智之先生（関東中央病院）を中心にその準備が行われています。その他、髄液や血液、さらに皮膚生検でレビー小体の主成分であるアルファ・シヌクレインの検出が話題になるでしょう。その他、DLBの治療が話題になると思われます。DLBのBPSDに対する治療薬としてコリンエステラーゼ阻害薬（特に日本で開発されたドネペジルの臨床試験データ）や漢方薬の抑肝散（その臨床研究データ）、さらに非定型抗精神病薬などが話題になるでしょうし、認知障害への治療薬の可能性が議論されるでしょう。もちろん、より正確な臨床診断基準やDLBの危険因子や予防法も話題になるのではないかと思います。とにかく、頻度が高く、BPSDが早くから起こり、介護が大変なDLBがより早く正しく診断され、適切な対応がなされること、危険因子が明らかになり、早く治療法が確立されることを願って、このシリーズを締めたいと思います。（おわり）

※次回からは、早川一光氏の連載が始まります。

1/28開催 会報・ホームページ委員会報告

11年度4月号から

早川一光先生の連載が始まります

2010年度の会報・ホームページの総括と2011年度の会報の役割や誌面構成・具体的な内容を下記の13名で話し合いました。

2010年は結成30周年、公益社団法人認可、「介護保険制度改正への提言」の発表など、「家族の会」の大きな節目の年でした。会報ではその内容や意義などをていねいに会員に伝えていくようにしました。お便りや介護体験記では会員相互の心の交流を感じる励ましのおたよりや情報提供などが編集委員会に届きました。課題は多いですが、目標の「励まし助け合い、社会とつながる ぼ〜れぼ〜れ」を実感しました。

2011年の新春対談で「老いの道筋の中でぼけたっていいじゃないか」「後継者の育成」を語られた早川一光先生の連載を始めます。また来年度に迫った介護保険改正議論のポイント解説など社会保障の連載を継続します。ホームページは「走りながら改善」ですが、親しみがあがり、必要な情報にすぐ到達できる内容やデザインを目標にしていきます。

委員：鎌田松代・関東澄子・酒井邦夫各理事、
坂口義弘、富岡大高、山添洋子、鷺巣典代

事務局：高見国生代表理事、三木敦子、辻村康代、
小野貴志（ホームページ）

編集協力：岡田温実、菅田亮

（会報・ホームページ編集委員長：鎌田松代）

アルツハイマー病治療薬 3品目がいよいよ使用可能に！

新たなアルツハイマー型認知症治療薬である第一三共㈱の**メマリー錠**®（メマンチン塩酸塩）、ヤンセンファーマ㈱の**レミニール錠**®（ガランタミン臭化水素酸塩）が3月中にも使用可能になる見通しです。

メマリー錠は中等度、高度の症状の進行抑制に効果があるとされ、アリセプトと併用することでより効果をあげるといわれています。

レミニール錠は軽度、中等度の症状において記憶、注意及び集中力が改善される効果があるといわれています。

また、小野薬品工業㈱の**リバスタッチ**®、ノバルティスファーマ㈱の**イクセロン**®（リバスタチミン）も3月に正式承認され6月ごろ販売の見込みです。貼り薬という便利さがあり胃腸障害などの副作用が少ないといわれています。

これらの治療薬の服用には医師の処方が必要です。主治医に相談してください。

3つの治療薬はそれぞれ異なる効能が期待され、従来のアリセプトに加え、治療薬の選択肢が大きく広がることは確かです。

「家族の会」では今後も、厚生労働省や製薬会社に根本的な治療薬の開発要望を続けます。（※は商品名の略）

会員さん からの お便り



在宅で11年

大分県・Oさん 55歳 女

要介護5の実母を在宅で介護して11年になります。今では車椅子になり、食事も自分で食べられなくなり、1時間かけてとろみ食を食べさせています。動き回る頃に比べると精神的に楽になりましたが、体力を使うことが多くなり、母は熱を出したり、体調不良になったり…。でも、入院しないで、自宅で往診に来てもらい、点滴して治っていきます。生きているから年齢に関係なく、身体が病気を治そうとするのです。でも、私の努力がないと母は元気にならないと思います。介護する人の気持ちは、される人に実によく伝わると思います。

特養にずっと いられなくなりました

埼玉県・Aさん 67歳 女

72歳の夫は20年以上前の発症とみられるピック病です。4年半の入院、その後7年9ヵ月の特養での生活でしたが、特養での対応が難しくなり、療養型病院入院になりました。となると、経済的負担が増し、戸惑いを感じています。

「特養にずっと」と私の安心が覆されることになってしまいました。悲しいです。

義兄夫婦と協力して

兵庫県・Tさん 51歳 女

義母（83歳）、神戸の震災後症状が出始め、12、3年。今は特養でお世話になっております。（ねたきり）

30年前に家族の会を結成しておいてくださったお蔭で私どもは義母の発症を疑いだした時点でいろいろ参考になるお話を聞かせていただき、アドバイスに従い行動することができました。

おかしい話ですが、義母の症状のおかげで義兄夫婦と私ども夫婦は歩み寄り、もめることもなく、協力し合えることはお互い力を出し合って今日まで来ました。小さな単位ですがこれも家族の会の精神のおかげと思い、感謝しております。

昔の母ならなあー

鹿児島県・Kさん 48歳 女

何度も同じ話をする。料理を作らなくなった。少しずつ“何か変”から受診。“アルツハイマー”と診断され、先行きを悲しみいっぱいにしてしまいました。インターネットで調べていくうちに本会を知り、さっそく入会、全国集会が佐賀であったとき、九州内ということもあり、母と一緒に小旅行気分に参加させてもらいました。多くの皆さんがこの病と一緒に歩んでいること、また、この病のとらえ方、勇気と元気をいっぱいもらいました。

3月に高血圧、糖尿から脳梗塞を起こしてしまい、入院、リハビリとなった母です。これからもまだいろんなことが待ち受けています、時には心が折れてしまいそうになりますがそんな時、皆さんのことを励みにしています。

一番つらいのは昔の母ならなあーと比べてしまう時が…。なんともなりませんねえ。

デイサービスに 行きたがらない

東京都・Aさん 53歳 女

要支援1、男。大正生まれで頑固で、人づきあいが大嫌いです。

「デイサービス」に行きたがらないのですが、どうしたらいいのでしょうか？

には行政側も学ぶものがあるはずです。
「要介護認定審査会に思うこと」

現在私は福祉関係と無縁の仕事をしていますが、かつて在宅介護支援センター（保健師）で施設と地域、地域内のネットワークづくり等に努力していた時代がありました。認定審査会にも出席していました。審査会のメンバーに、過去も現在も疑問を持っています。地域のこと、高齢者のこと、認知症のことを理解している方が出席されているようには思えませんでした。

誰でも人として 大事にされたい

富山県・Hさん 59歳 女

デイサービスで看護師として働いています。ケアマネジャー、認知症ケア専門士のほかいろいろ勉強し、私自身を豊かにして仕事をしています。

認知症の高齢者の方からは、実に多くのことを学ばせてもらっています。誰でも人として大事にされたいのではないのでしょうか。仕事でお会いする方々とよい関係を作れるよう努めているところです。

あっけなく終わりを迎えて

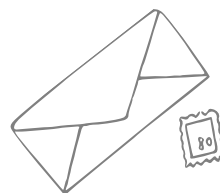
静岡県・Oさん 49歳 女

長い介護生活が突然あっけなく終わりを迎えたのは昨年3月28日。母は3月26日に自宅で転倒、緊急入院、大腿骨骨折そして病院での心筋梗塞、まるで坂道を転がるような日々でした。少しずつ落ち着きを取り戻しております。

糖尿病の合併症が始まって22年。心臓バイパス手術が13年前。認知症は10年ぐらいでしょうか。でも本当に辛かったのはここ8年ぐらい。

認知症は介護者を裸にします。本人に刺激されていただつ自分と向き合い、折り合いをつけて暮らさなければいけないことが苦しかった。今、まさに苦しんでおられる方、認知症を勉強してください。「家族の会」を活用、利用してください。きっと光が見えますよ。

涙は出なかったです。「ひとつ何かを成し遂げた」という気持ちを今はかみしめています。



思いつくまま

大阪府・Yさん 58歳 女

- 認知症の理解を進めるに当たり、学校教育の中に自然に盛り込まれるような体制がとられ、命の大切さ、人への思いやり、人の輪の大切さを学ぶ。
- 行政への批判は誰でもできます。しかし、行政との連携を図っていくことは必要だと思います。連携を図るため声掛けをし、共通点を見出す。家族の会の30年の歴史

お待ちしております！

■「ぼ～れ ぼ～れ」へのご意見やお便りは「家族の会」編集委員会宛にお送りください。

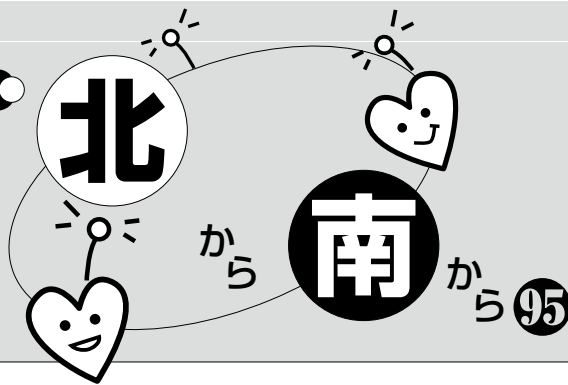
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館内
FAX.075-811-8188 Eメール office@alzheim.or.jp

●支部だよりにみる●

介護体験

母を看取って

広島県支部 田中道子



広島県支部版
(2011年1月号 No.178)

思い起こせば20年近い介護でした。母の変化に毎日毎日戸惑い、どう接しどう対応していけばいいか分からず、母のことで頭がいっぱいの中、3人の子育てと介護の同時進行でした。

●母への対応から…

同じことを何度も何度も聞いてくる。特にお金のこと。お金のことだからと思いつつ丁寧に説明し、紙に書きとめ渡すが、すぐ不安そうに聞きに来る。1時間かけて説明したのにまたかと、ため息の連続。こんな状態になってくると、隣の姉が「お母さんはおかしい、ボケ始めた」と認識し始め、夫も私の話を聞いてくれるようになり、私もこれがボケかと認識し始めました。

思い返せば、まだらボケの時期が一番しんどかったように思います。夫は時にはプツンと切れてしまい、母と強い口調で言いあっていました。

●不安いっぱい母…

不安いっぱいの母の気持ちを少し方向転換しようと夫の提案で、夕食後家族全員で円陣を組み、童謡をみんなで歌ったり、紙風船で風船バレーをしたりと楽しい時を過ごすようにしていました。皆で笑える楽しい時間でした。これは幼い子がいたからこそ、そして介護の手伝いをしてくれたことに感謝しています。また、母の質問攻めが始まるとまず私が対応するのですが、私が疲れると次は夫にバトンタッチ。夫が疲れると子どもにバトンタッチ。今日は「誰だれがおばあちゃんと波長があったね」とゲームの勝者を讃えるような会話をして楽

しんだりもしました。どんな時でも介護は人数と常々感じていました。

●骨折から…

87歳で大腿骨頸部骨折をし身体機能はガタッと落ち、質問攻めや徘徊に代わって身体介護が必要となりました。それと同時に夫が積極的に介護に関わるようになり、私としてはずいぶん気分が楽になりました。

90歳になると日々の生活の中で歩行・嚥下・発語などの身体機能の衰えを眼に見えて感じるようになりました。そうなる、毎日ヤレヤレと思っていた私たちが少しずつ優しくなり、母の体調の変化を気遣うようになりました。

●94歳の母との絆…

94歳の秋、ひどい肺炎になりもうダメかと覚悟もしたのですが、なんとか退院。しかし寝たきりの状態になりました。夫と私は専門看護師しながら毎日の母の様子を伝えあい共有し、子どもたちも加わり宝物のように大切に、大切に介護しました。母が家族の絆を強くしてくれたと感謝しています。一瞬一瞬、母の命を大切にしている私たちがいる。それは命の尊さ・重みを一生懸命生きることで、母が私たちに教えてくれたからです。在宅で24時間接することができたからこそ大きな財産がもらえたんだと思います。

原爆を体験し厳しい時代を乗り越え、最後の最後まで一生懸命生き抜いた母に感謝します。ありがとうございます、おかあさん。

担当は富山県支部です

次回からは山形県支部が担当します

“つどい”は知恵の宝庫

介護初心者の悩みに応える 48

ひとり暮らしの叔母が、私たち姪に「財布がない」とか「部屋の中の物を盗っていった」と言い、困っています。



資産家の叔母（90歳）は子どもがなく、夫を亡くしたあと、私たち姉妹（姪3名）と兄嫁と養子縁組し、面倒を看てくれたら財産を四等分するという「遺言書」を作成しています。1年ほど前に認知症と診断され要介護2の認定を受けました。最近、物盗られ妄想がひどくなってきました。兄嫁が勤務しているデイケアに週5回通い、それ以外は、姉たちと私が交替で介護に行っていますが、「盗った」と言われるので姉たちは怒って「もう手伝いをしない」と言います。どうしたらよいでしょう。（相談者：38歳、姪）



介護者A：物盗られ妄想も一時期だけ

私の姑も物盗られ妄想がとても激しい時期があり、本当に悔しくてつらい思いをしていました。「家族の会」のつどいに出席し、皆さんから同じ様な体験を聞き、一番介護している人に強く出る症状だということを教えてもらいました。「あなたを頼りにしているからこそなのですよ」と言われ、なんだか姑が愛おしくもなりました。いつの間にか物盗られ妄想はなくなっていました。しかしその頃には失禁が始まりましたが…。



看護師：認知症の勉強を 物盗られ妄想は、認知症という病気の症状からくることです。

介護に関わる全員が認知症についての知識を持つことが大切です。専門職である兄嫁を中心に4人で認知症の勉強をしたり地域の認知症サポーター養成講座に参加されてはいかがでしょうか？「知ること」は「力」です。



介護職員：不安を軽くする ものごとが

分からなくなることや、忘れることへの不安や焦燥感から出る症状といわれています。よくお世話している人が犯人扱いされるのがつらいですね。ひとり暮らしとのこと、夜間はいちばん不安になりやすいので、それぞれのご家庭もあるでしょうが、可能でしたら交替

で泊まるようにしてみてもはいかがでしょうか？



施設相談員：今後を考えて成年後見の申請を

物盗られ妄想の介護は大変ですが、それが出てきたということは日常の金銭管理や契約なども困難になってこられていると考えます。成年後見制度や日常生活自立支援事業などの利用も必要になっていると思います。



介護者B：施設の利用を考える時期

そろそろひとり暮らしが限界に近い感じがです。今後、介護が大変になっていけば、あなたたちがいつまでもお世話できるか分かりません。介護付き有料老人ホーム、グループホームなどの申し込みも必要な時期だと思います。



ケアマネジャー：介護分担と相続について法律の専門家に相談を

養子縁組して介護を分担しているが、物盗られ妄想が出てきて介護したくないという人も出てきているとのこと。物盗られ妄想への対応策と同時に財産分与の問題についてもみんなが理解しておくことが大切です。介護分担と相続について早めに法律の専門家に相談し、4人で確認しておいたほうがよいと思います。



▶▶3ページからの続き

「暮らしと介護保険に関するアンケート調査」の報告

3. 介護状況

認知症の人の居場所は自宅592人（68.4%）、介護保険施設179人（20.7%）、病院・診療所50人（5.8%）、その他11人、不明34人でした。介護時間をみると、約半数の介護者が一日の大半を介護に費やしています（図3）。

図3 ● 介護時間



また、生活や介護上の困難「あり」と回答した人の割合を過去の調査と比較しました（表1）。過去の調査では認知症の人の居場所別分析をしていませんが、今回は自宅、施設（介護保険施設、病院・診療所、その他）別に計算します。その結果、見守りの必要性に伴って生じる心理的拘束のつらさ（目が離せない、気が休まらない）には大きな変化はないものの、「外出できない」「自分の時間が持てない」など物理的拘束への困難感には改善がみられます。一方、経済的負担に関する困難感91年調査以降、常に20%程度で推移し、また介護者自身の病気に対する困難感は微増傾向にあります。

表1 ● 生活や介護上の困難「あり」と回答した介護者の割合の変化（複数回答）

	1981年 233人	1991年 720人	1999年 1130人	2010年	
				自宅592人	施設等240人
同じことを何度も聞かれる	38.2%	28.0%	27.8%	43.4%	22.5%
目が離せない		38.8%	41.8%	40.0%	28.3%
気が休まらない		59.6%	70.1%	62.3%	41.3%
外出できない		44.3%	43.0%	23.6%	10.4%
自分の時間が持てない		53.3%	58.9%	36.1%	18.8%
介護を手助けしてくれる人がいない	42.1%	25.3%	19.6%	18.9%	16.7%
経済的負担が大きい		22.4%	22.6%	21.8%	22.1%
自分自身に病気がある	17.6%	15.6%	13.0%	22.3%	19.2%

4. 介護保険サービス・制度に対する満足度

介護保険サービスへの満足度は、訪問介護、訪問看護、訪問入浴介護、デイケア・デイサービス、小規模多機能型居宅介護、認知症グループホームの入所、居宅療養管理、福祉用具の貸与・購入の8項目で、利用者の75%以上が「満足」と答えました。一方、「不満」とする人が30%を超えたのはショートステイ、介護保険施設の入所・入院、有料老人ホームの入所の3項目でした。

介護保険制度全般に対する満足度については、元介護家族や保健医療福祉関係者の回答も含まれています。回答不明を除いて分析した結果、「満足」とした人が多かったのは「受けているサービス内容、質はいかがですか」（62.6%）と「ケアプランは実情に合っていますか」（64.8%）、「不満」と回答した人が多かったのは「希望すれば入所できますか」（80.1%）、「保険料以外に介護にかかる費用はいかがですか」（64.8%）でした。以上がアンケート結果の概要の報告です。

いきいき 「家族の会」 まちでも村でも

各地のつどい 県下10ヵ所で

大分県
支部

支部では現在毎月のつどいを7ヵ所で、2ヵ月に一度のつどいを3ヵ所と計10ヵ所を県下各地で開催しています。このほか男性介護者と若年性認知症のつどいをそれぞれ行っており、昨年は各地の担当者会議を

もつこともできました。各地のつどいの歴史は、支部発足当初から行っているところもあれば、各地で実施してきた「家族支援プログラム」をきっかけに昨年より発足したつどいなど様々です。歴史は違っても「お互い気兼ねなく何でも話をできる場」であることには変わりはないようです。

震災を乗り越え会報発行 200 号に

兵庫県
支部

1月に支部会報が発行200号を迎えました。当初隔月発行であったものが発足2年後から毎月発行ができるようになったのもつかの間、1995年1月に兵庫県を襲った阪神・淡路大震災により会報の発行もままならない状況となりました。その間、本部会報に安否確

認などの記事を挿入してもらったり、また本部事務局が「兵庫県支部通信 連帯」を半年間発行したりと、会員への励ましが続きました。ようやく支部より同年7月に「一明日に向かってー復興特集」号が発刊され、現在の200号へとつながっています。支部では今後も会員に「仲間がいるよ」を届けたいという思いで発行を続けています。

県委託事業に早川先生登場

島根県
支部

支部が県より受託し行っている「認知症を考えて共に歩む地域交流会」では、今回浜田市で早川一光医師の講演会を行いました。これは地元市役所の熱い要望により実現したもので、当日は早川先生の登場の際に、

3人の女性から花束とプレゼントを贈呈されるなど、地元の人々による歓迎で始まりました。早川先生は「生きることと逝くこと」をテーマにお話しされ、当初予定の60分間のお話にとどまらず、会場全体を巻き込んだ話し合いになり、150名を超える参加者に大きな感動を巻き起こし、盛会のうちに終わりました。

「介護のよろこび」作文で披露

新潟県
支部

支部の下越エリアでのつどいに、この度、日本介護福祉士養成施設協会事業・関東信越ブロック新潟県部会事業が主催した「介護のよろこびコンテスト」で最優秀賞を受賞した会員の松本一郎さんと長谷川

正さんが参加しました。新潟県内での最優秀賞受賞者はこのお二人だけで、つどいの参加者でお祝いしました。お二人には作文を朗読して頂きましたが、ともに男性介護者として妻を介護されているお二人で、妻への愛情が伝わってくる内容に聞いていて涙された方が何人もいました。

国際交流委員会発 マレーシアの巻

「ケアでつながる地球家族」

■アジア太平洋で地域事務所開設の方向に

昨年10月、マレーシアの首都クアラルンプールでADIのアジア太平洋地域会議が初めて開催されました。「家族の会」は残念ながら代表団を送ることはできませんでしたが、今回の地域会議はアジア太平洋地域にとって記念すべき大会になりました。ADIには、現在ヨーロッパとアメリカの2つの地域事務所がありますが、アジア太平洋地域にも事務所を開設

しようという提案があり、話し合いの結果、「是非とも実現を」の決定がされました。参加できなかった「家族の会」も実現の方向については賛意を送りました。3月にカナダのトロントで開催される第26回国際会議の総会では、アジア太平洋事務所開設問題が議題として検討されます。また、マレーシアから出展された写真が、昨年のADI国際写真展のアマチュア部門で1位に選ばれています。



1位に選ばれた写真

（国際交流委員長 吉野 立）

認知症への早期対応の拠点、 英国のメモリー・カフェ II



同志社大学大学院総合政策科学研究科教授

井上 恒男



前回（2010年11月号）で少しふれましたが、英国のメモリー・カフェというのは、もの忘れのことなどが気になりな高齢者に気軽に立ち寄ってもらおうと設置された街中のたまり場です。

カフェではコーヒーやお茶を飲みながらくつろいだ雰囲気での相談ができ、必要なら家庭訪問等も受けられます。訪ねた自治体（ボーンマス・プール）には現在3カ所のカフェがあり、運営は地域のアルツハイマー病協会に委託され、協会の認知症アドバイザーが活動の要になってソーシャルワーカー等とチームを組み、認知症の不安やトラブルを抱えている高齢者のサインを早めにキャッチして様々なサービスにつなげていく活動を行っています。ちなみに、認知症アドバイザーというのは、「全国認知症戦略（5ヵ年）」の一環として全国いくつかの地域で試行事業として養成されている認知症ケアに関する地域の相談役です。

カフェの取り組みで興味深かったのは、「マイライフストーリー」というノートづくりです。

家族構成、生き立ち、普段の生活状況、趣味・嗜好、信条等を一冊にまとめたノートで、これを高齢者と職員が一緒に作ることで高齢者とのよい関係ができるだけでなく、認知症が進んだ時にその高齢者のことを理解する貴重な情報源になるとのことでした。また、最近のこと、カフェに集まる高齢者が教会で合唱発表を行うようになり、なかなか盛況、好評だったとか。

私が訪ねたメモリー・カフェは商店街にありましたが、地域の保健医療部局では、認知症の早期対応のためには地域関係者の理解を高めていくことが鍵と考え、それをビジネス的発想で進めているところが新鮮でした。事業担当の次長さんはもともと銀行に長年勤務し、福祉・保健医療分野の仕事に就いたのはまだ数年前のことだそうです。彼女の面目躍如とでもいうか、商店街に協働を呼びかける際に、行政のために協力してもらおうという発想ではなく、例えばクリーニング屋さんや薬局も、高齢者との接点を広げていけば顧客が増えるというメリットを強調しているとのこと。中でも目を引いたのは、カフェの数軒隣にある大手銀行のコーヒーコーナーです。お金の管理が機械化、複雑化し、とまどいがちな高齢者に一服する場所を提供するとともに、テーブルには高齢者サポートのためのパンフレットが置かれていました。銀行にもしっかり営業成績を伸ばしてもらいながら、高齢者に優しい街づくりをしていこうというわけです。そんな取り組みが着実に広がりつつあることを感じました。



メモリー・カフェの
ようす
(右端が筆者)

連載 5

「提言」の「こころ」に注目



田部井康夫

Tabei Yasuo

「家族の会」介護保険・社会保障専門委員
デイみさと施設長、介護認定審査会委員（群馬県）

「家族の会の提言」の成果と課題

提言の成果

「家族の会」が2010年に発表した「介護保険制度改正への提言」は内外に大きな反響を呼びました。「要介護認定を廃止し、介護サービスの決定を保険者を加えた新たなサービス担当学会議（ケアマネジメント会議）の合議に委ねる」ことを眼目に据えたことによるものであり、この提案が制度の根幹に触れるものであることを如実に示していました。

当初、要介護認定に疑いを抱かなかった人たちに混乱と反発を招いたこの提案も、「家族の会」の中での議論や堤修三先生と白澤政和先生による対論などをとおして理解・普及に努めた結果、十分論議に値する提案であることが認識されるようになりました。社会保障審議会介護保険部会報告でもこうした議論があることが取り上げられました。またその後開催されている介護給付費分科会でも、要介護認定のあり方について引き続き議論がなされようとしています。

また、介護サービス情報の公表制度の廃止、自己負担割合1割の堅持、介護サービス利用者に対する報酬の支払いの提案項目は実現の方向で動いています。

その意味で、提言の発表と普及に一定の成果があったといえることができます。

危惧される動き

しかし、それにしてはひしひしと感じるこの閉塞感はどこから来るのでしょうか。

それは、2010年の提言で掲げた、①必要なサービスを、誰でも、いつでも、どこでも、利用でき

る制度、②わかりやすい簡潔な制度、③財源を制度の充実のために有効に活用する制度、④必要な財源を、政府、自治体が公的な責任において確保する制度

という目指すべき方向性から、制度の議論の現状が大きくそれようとしていることから来ています。

「給付の重点化」の名目で、要支援者、軽度の要介護者へのサービスを削ろうとする動きがあります。「予防給付と生活支援サービスの総合化」、「複合型サービス」、「地域包括ケア」などの言葉が制度をますますわかりにくくしています。重度への対応をうたった「24時間対応定期巡回・随時対応サービス」が実施されようとしています、その実効性の検証は十分ではありません。これらの懸念される議論の根元はすべて「財源がない」ということに尽きます。

今後の取り組み

「家族の会」は、認知症の人と家族がより尊重されるよう、介護保険だけでなく社会的な施策全般の実施を求める要望書を準備しつつあります。財源がないから給付を削減するのでは何の知恵もありません。社会保障を政策の最優先課題に据え、あるべき姿を求めることから知恵や工夫が生まれてきます。財源も実現される姿との関連で論じられてこそ意味を持ちます。「家族の会」は、提言2009年版で提唱した「高福祉応分の負担」の考え方を踏まえた財源の議論も含め、近日中に厚生労働大臣に提出する要望事項の実現に向けて積極的に活動を進めてゆきます。



仲間と出会う
話したい

今月の本人

丸本正章さん（68歳・兵庫県支部）

丸本さんは、定年直後の2002年に若年性認知症と診断されました。音楽が好きで歌ったり、口笛を吹くのが得意。また、じっとしているより身体を使う方が好きと活動的な一面もあり、デイサービスやアートセラピーと毎日、外に出かけるようにしています。



09年11月、琵琶湖へのリフレッシュ旅行に妻・恭子さんと共に参加。手拍子をとりながら口笛を吹いています。

今年の抱負は 「福よ来い来い」、「笑うこと」

発病前はきまじめで正直者。今はいろんなものがそぎ落とされて、柔らかくなったそうです。正章さんは妻の恭子さん想いの方です。恭子さんが肩のこった仕草をするとすぐに揉んでやり、買い物に一緒に行くと必ず荷物は持ってあげますが、それで奥さん孝行をしたと思われるのが嫌で、さりげなく助けようとします。



▲リフレッシュ旅行、あいさつは得意!です。

一番大変だったのは診断を受けてから、そのことを受け入れるまでが苦

しかったと正章さんは話しました。しかし、病気を隠さず、「今はこんな状態なのです」と周囲に話し、病気と向き合ってきました。それが幸いとなったのか周囲に受け入れられるのは早かったそうです。

恭子さんの存在の力は大きく、病気はつらいですが2人でいる時間が増え、夫婦の絆が深まっているように感じているそうです。

今年の抱負を聞きましたら「福よ、来い来い」と「笑うこと」を挙げられました。今年はのんびりと過ごし、健康で1年間を通して笑顔で元気に行けたら良いと思っているそうです。

（兵庫県支部世話人・脇田英二）



▲リフレッシュ旅行の宴会での1コマです。



▲09年12月クリスマス会で、マンドリンの演奏と音を合わせています。



▲09年秋ごろ、王子動物園で。この日は晴天で終始笑顔の一日でした。

情報コーナー 交流の場

宮城●4月7日・21日(木) 午前10:30～午後3:00／若年期認知症のつどい→仙台市泉社会福祉センター

神奈川●4月3日(日) 午前11:00～午後3:00／若年期認知症本人・家族のつどい→横浜市旭区生活支援拠点ほっとぽっと

富山●4月2日(土) 午後1:00～3:30／て

るてるぼうずの会→サンフォルテ2階 介護実習室

滋賀●4月13日(水) 午前10:00～午後2:00／ピアカウンセリング→滋賀県成人病センター職員会館2階

広島●4月9日(土) 午前11:00～午後3:00／若年期認知症・陽溜まりの会広島→中区地域福祉センター（広島市）

4月23日(土) 午前11:00～午後3:30／若年期認知症・陽溜まりの会西部→あいプラザ（廿日市市）

宮崎●4月11日(月) 午前11:00～午後2:00／本人交流会「今日も語ろう会」→宮崎県支部事務所

詳細は各支部まで

愛都の会・定例会●4月10日(日) 午後1:00～4:00／連絡先：愛都の会06-6972-6491

高見代表の No.219

一筆啓上
いっ ぴつ けい じょう

一景送信))

本部電話相談員研修会には8支部からの参加もあり、47名が8班に分かれてグループワーク。左の後ろ姿は講師の京大医学部武地一医師。(2月27日、京都府中小企業会館)



会員のみなさんお元気ですか。

前号で、京都府支部のつどいの様子を紹介しました。「話すこと聞くことで気持ちが晴れ、前向きになれるのがつどいのよいところですよ」と書きました。

そうしたら、京都府支部会報の2月号の「みんなで話そう!」欄の今月のテーマが「つどいについて」でした。

「参加して私は最初から、来てよかったと思いました」、「心が何かしら晴れ晴れとした気持ちとなり、苦勞が何処へやら飛んでいくみたいです」という声とともに、『「つどい」この優しい言葉の響きが毎日のストレスを吹き飛ばしてしまいます』というのがありました。中味だけでなく、つどいという呼び名が優しいというのです。

「あっ」と思いました。そういえば、時々会員でない人から、「つどいって何ですか」と尋ねられることがあります。「つどい」一文字通りなら、「つどうこと、集まり」(広辞苑)ですが、私たちの言う「つどい」には、そこで話し合うこと、泣き合うこと、笑い合うこと、元気をわかすことなどさまざまな要素を含めています。一般的には「家族交流会」の方がわかりやすいのかもしれませんが、「交流会」では伝えきれない味わいを含んでいるつもりなのです。「つどい—この優しい言葉」と言ってもらって、

思いが伝わっているとうれしくなりました。

つどいと会報それに電話相談は「家族の会」の基本の活動です。全支部の世話人がもっとも大切にしていることです。支部のつどいを合計すると1年間に2,408回開かれ、延べ3万1千人余が参加しています(2009年度)。これは日本のどこかで毎日6カ所以上、つどいが開かれていることになります。合わせると、涙の量も相当なら笑顔と笑い声もかなりなものになるでしょう。生き続けることの不安と介護の苦勞を、どれだけの人がつどいで和らげてきたことでしょうか。

つどいは、本人や家族が現実の困難に立ち向かうためになくってはならない場所ですが、しかし、つどいだけですべてが解決できるわけではありません。個人の力だけではどうにもならないことがあります。そのために、「家族の会」は、介護保険など社会的サービスが充実すること、働くことや暮らすことが安定することが大切と考えています。要望や提言は、このような思いから発し続けているのです。当事者が声をあげなければ社会は変わらないと信じて。

それでは、また来月まで、がんばってください。

2011.2



理事&本部事務局活動・業務日誌

●理事・本部活動●

3日★常任理事会/7日★社会保障審議会介護給付費分科会(東京)勝田◎/10日★選挙管理委員会/11日★愛知県支部30周年記念講演会 鎌田◎/11日~12日★山口県支部準備会交流会、結成大会 高見◎、小川◎/18日★会報編集会議/20日★杉山孝博 Dr.◎ターミナルケア講座富山会場/21日★介護保険・社会保障専門委員会/24日★CS放送「リングリングプロジェクト・フォー・オートレース」取材(撮影) 鎌田◎/26日★KBSラジオ「ぼんざい人間」出演 高見◎、村上◎/27日★電話相談員研修会

●事務局業務●

3日★日本製薬工業協会セミナー(大阪)小川/25日★福祉医療機構補助金説明会(大阪)小川、小野

〔文書等受〕

2日〔連絡〕支部「事務連絡」/「本人ネットワーク支援事業報告会」への参加及び広報の

お願い ◎/9日〔連絡〕支部「事務連絡」◎/13日〔会報〕支部 会員 ぼ〜れぼ〜れ367号 協力:京都府支部 ◎/16日〔連絡〕支部「事務連絡」/〔通知〕支部「2011年度総会の代議員選出について」◎/23日〔連絡〕支部

「介護保険専門委員会ニュース5号」/「事務連絡」◎

- 会員数(個人・団体) 10,470名・団体(2月15日現在)
- ホームページ総訪問者数のべ 43,972件(1月1日~31日)
- 本誌発行部数17,500部

事務局 ほっと
コーナー

はじめまして。昨年6月末よりアルバイトでお世話になっております櫻井です。よろしくお願ひします。「家族の会」の一員となって最初に頂いた仕事は「本部電話相談」の管理事務でした。まず、相談員さんのお顔とお名前を一致させることから始めました。一度お会いしただけでは覚えられないので、こっそり30年誌を

見ては確認をしていました。そんな私も先日の2月27日に行われた本部電話相談員研修会では、なんと司会進行役!当日は心配された雨も降らず、8階の景色のよい会場で47名もの参加の中、無事大役を果たせホッとしています。しかし、一息ついてもらえません。4月から新しい相談員さんをお迎えします。緊張せずに相談を受けてもらえるように準備しないと。がんばります。

(事務局 櫻井あかね)

◆◆各地のつどい◆◆

事前に支部へお問い合わせの上で参加ください。なお、つどいの情報は14ページにも掲載されています。

岩手 ▶4月13日(木) 午後1:30～3:30 / 滝沢のつどい→スマイルすまいる
▶4月16日(土) 午後1:00～3:00 / 岩手町のつどい→ゆはす交流館
▶4月23日(土) 午後1:30～3:30 / 盛岡のつどい→アイーナ

宮城 ▶4月14日(木) 午後1:30～3:00 / 男性介護者のつどい→みやぎNPOプラザ
▶4月16日(土) 午後1:00～3:00 / つどい→みやぎNPOプラザ

山形 ▶4月9日(土) 午前10:00～正午 / 庄内のつどい→酒田・総合文化センター
▶4月23日(土) 午後2:00～4:00 / 山形のつどい→山形市民活動支援センター（霞城セントラル22階）

福島 ▶4月6日・20日(木) 午前10:00～正午 / 南会津地区会シーツ交換後、交流会→田島ホーム
▶4月17日(日) 午後1:30～3:30 / 県南地区会総会→白河中央福祉センター（白寿園）
▶4月17日(日) 午前10:00～午後3:00 / 南会津地区会ニコニコサロン→社会福祉協議会

埼玉 ▶4月3日(日) 午後1:30～3:30 / 四季の家のつどい→「盆栽四季の家」（さいたま市）
▶4月7日(木) 午前11:00～午後2:30 / 浦和のつどい→サンビュー埼玉1階会議室
▶4月23日(土) 午後1:30～4:00 / 川越のつどい→川越クラッセ

千葉 ▶3月30日(木) 午後1:00～3:00 / 習志野のつどい→習志野市大久保公民館

東京 ▶4月13日(木) 午後1:00～3:00 /

支部総会・交流会→支部事務所（四谷）

神奈川 ▶4月16日(土) 午後2:00～ / 支部総会→県民活動サポートセンター 1501会議室

福井 ▶4月9日(土) 午後1:30～3:30 / 福井市つどい→ふくい県民活動センター 706会議室

滋賀 ▶4月19日(火) 午後1:30～3:30 / さつき会→滋賀市民センター
▶4月26日(火) 午前10:00～11:30 / あやめ会→晴嵐支所1階会議室

京都 ▶4月2日(土) 午後1:00～3:30 / 男性介護者交流会→京都社会福祉会館
▶4月17日(日) 午後1:30～4:00 / つどい→京都社会福祉会館

大阪 ▶4月8日(金) 午後1:00～ / 支部総会とつどい→阿倍野市民学習センター研修室

兵庫 ▶4月16日(土) 午後1:30～3:30 / つどい→神戸勤労会館多目的ホール

奈良 ▶4月6日(木) 午後1:00～3:30 / 北和のつどい→学園前西部公民館
▶4月13日(木) 午後1:30～3:30 / 南和のつどい→大淀町役場202会議室

鳥取 ▶4月8日(金) 午前10:00～正午 / 東部のつどい→さざんか会館（鳥取市）
▶4月12日(火) 午前10:00～正午 / 西部のつどい→ふれあいの里（米子市）
▶4月21日(木) 午前10:00～正午 / 中部のつどい→倉吉交流プラザ（倉吉市）

岡山 ▶4月8日(金) 午後1:00～3:30 / 岡

山地域のつどい→岡山市保健福祉会館4階
▶4月9日(土)・22日(金) 午前10:30～午後0:30 / 倉敷地域のつどい→くらしき健康福祉プラザ201研修室
▶4月21日(木) 午後1:00～3:00 / 井笠地域のつどい→笠岡市認知症介護研修センター

広島 ▶4月25日(月) 午前10:30～午後4:00 / 支部総会・講演会→広島市社会福祉センター→講師：山内雅弥氏（中国新聞社）

香川 ▶4月6日(木) 午前10:00～正午 / 介護者のつどい→旧女性就労支援センター
▶4月16日(土) 午前10:00～正午 / 男性介護者のつどい→旧女性就労支援センター

愛媛 ▶4月11日(月) 午後1:00～3:00 / 中予地区のつどい→愛媛看護研修センター
▶4月13日(木) 午後1:00～3:00 / 東予地区のつどい→西条市総合福祉センター
▶4月13日・27日(木) 午前11:00～午後1:00 / 南予地区のつどい→城辺保健福祉センター

宮崎 ▶4月16日(土) 午前11:00～午後2:00 / つどい→宮崎県支部会議室

編集委員の窓

3月号付録「緊急時対応シート」をつくるため近くの消防署を訪ねました。「認知症の人と家族の会のものですが…」と名乗るとすぐに「ああ、いつもお世話になってます」と笑顔で返事が返ってきました。「こちらこそ、お世話になってます」と答え、話は順調に進みます。救急の電話を受ける側として困った体験やよくある間違い等を丁寧に説明してくれました。地域ケアの重要な担い手である消防署の職員さんが「家族の会」と聞いてすぐに反応してくれたことに驚くやら、うれしいやら。認知症サポーターの数も全国で約230万人を超えたと聞きます。各地の支部会報や新聞記事からも、私たちの目標「認知症の人と家族が安心して住める地域づくり」が進んでいるのを感じます。「家族の会」の会員はじめ、さまざまな人の努力で、全国津々浦々で顔が見える、手の届く協力関係ができてつづいているのだと思います。思いがけず、消防署で一足先に春の明るさを感じることができました。（編集委員 鷲巣典代）



会費納入のお願い

【2011年度も会員としてご継続ください】

●正会員(個人)の皆さまへ

郵便振替での納入の方▶年会費5,000円を同封の郵便振替用紙で6月末までに納入してください。なお、支部によっては支部を通して会費納入するところもあります。なお、2012年度の会費自動引き落としのご案内は8月号に同封いたします。

自動引き落としお申込の方▶3月25日(金)にゆうちょ銀行口座から引き落としをいたします。また当日、引き落としができなかった場合、翌月25日に再度、引き落としをさせていただきます。

●賛助会員の皆さまへ

年会費は1口10,000円。何口でも結構です。なお、自動引き落としによる年会費の納入も実施しています。

2010年度賛助会員の芳名⑫ (10.10.16～11.1.31)

〈医 療〉医療法人弘仁会板倉病院（千葉）▲広島県西部認知症疾患医療センター（広島）▲井野辺病院（大分）
〈福 祉〉株式会社社美暮らし型有料老人ホームこはる（青森）▲岩沼市地域包括支援センター連絡会（宮城）▲認知症高齢者グループホーム和楽路（宮城）▲愛の泉

加須市東部地域包括支援センター（埼玉）▲総合福祉施設京都桂川園（京都）▲ほのぼのデイサービスふくちゃんの家（鳥根）▲認知症・草の根ネットワーク（福岡）
〈その他〉特定非営利活動法人安寿（宮城）▲有限会社白神環境衛生消毒（岡山）▲さつきコーポレーション株式会社（鹿児島）

発行所●公益社団法人 認知症の人と家族の会

Alzheimer's Association Japan

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館内

TEL.075-811-8195 FAX.075-811-8188

発行人●代表理事 高見国生 編集人●会報編集委員会（委員長 鎌田松代）

定 価●1部200円（送料20円）[会員の年間購読料は会費に含まれます] 郵便振替口座番号 01050-3-047146

編集協力●株式会社クリエイティブかがわ 印刷●新日本プロセス株式会社 [転載時は本部事務局にご連絡下さい]

「本人と家族と社会をつなぎ
勇気をあたえる ぼ〜れぼ〜れ」



財団法人 J K A

補助事業

この会報は、財団法人 J K A の補助を受けています。

本誌発行経費の一部について協力を得ています。 (E) エーザイ株式会社 (F) ファイザー株式会社